

## 泉が湧き出た逸話をもつ 水と緑を司る神社

古来は吹田の氏神として農耕の神様を祀っていた。西暦869年、当時の吹田は大規模な干ばつに見舞われていた。播磨の広峯神社から八坂神社の御祭神として迎えらるる建速須佐之男大神(たけはやすきののおおみかみ)の神輿が泉殿宮に立ち寄った際に、降雨を祈ったところ、雨が降り、境内に泉が湧いて土地が冠水するほど潤ったと言われている。雨を喜ぶ人々の姿は「泉殿宮神楽獅子(いづどのぐうがらじし)」という舞として現在にも伝えられている。

使った大阪麦酒(現在のアサヒビール)が、東洋初のビール醸造工場を建設したという逸話もある。現在、霊泉は湧き出していないが、宮司の宮脇さんは「霊泉は人々が必要な時に湧き出てくるもの。水脈は地下深く流れ、今もどこかで水を溜めていると思えます」という。

ほかにも日本万博博覧会の建設の際に行われた地鎮祭や立柱祭に使われた柱や地車(だんじり)に祀られた戎神社など、地元根ざした見どころも多い。



吹田市西の庄町10-1  
9時~17時(授与所)  
参拝は自由 P有り  
☎06-6388-5680  
http://www.idudono.jp

## 市軸稲荷神社 (イチジクイナリジンジャ)



初代宮司がお告げにより、地元の刀根山で祀られていた市軸大神を地主神として迎え、大正15年に造営したのがはじまり。市軸大神は伏見稲荷の「沖廣大神」であることから、刀根山のお稲荷さんとも呼ばれる。末社のお多福大神も有名で、一般的な芸能の神様ではなく、こちらで祀るのは瀬織津比咩(せおり)

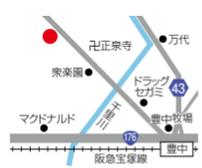
## 願い事を叶えてくれる 地元のお多福さん

つひめというお祓いの神様。2月3日の節分祭では等身大の姿を拝むことができ、当日は花かんざしを頭に刺し、「頭いた、頭いた」と唱え、願い事を言うと、願いが叶うといわれる。



1. お多福さんを直接拝めるのは節分の日のみ
2. かんざしはお多福さんの前で願い事を言った後、大根に刺して帰る
3. 鳥居の奥が拝殿。節分の日には拝殿へ入ることができ、多くの人で賑わう

豊中市刀根山2-2-33  
9時~17時(授与所)  
12月31日は23時45分~翌3時  
1月1日~3日は6時~18時  
節分は20時半まで  
P有り 参拝自由  
☎06-6857-3618  
http://www.geocities.jp/ichijiku\_inari/index.htm



## 泉殿宮 (イツドノグウ)



1. 平成28年秋に厳肅に遷座祭が斎行された銅(あかがね)色に輝く御社殿と絵馬
2. 本殿の左奥にある「泉殿霊泉」。長年水の恵みを地域に湛えた泉
3. 勇壮な彫刻が施された地車に祠を祀った「吹田戎神社(すいたえびすじんじや)」
4. 日本万国博覧会の祭事に使われた元柱が境内にある

## 阿比太神社 (アビタジンジャ)



- 1, 2. 争いに勝った桜村の鳥居が本殿前に行む。そのため、桜参道の入り口にだけ鳥居がない。毎年12月23日、豊作を願ひ、桜村の人々の手で葉を燃やして作った新しいしめ縄に付け替えられる
3. 本殿と末社の大杉稲荷を結ぶ「無事通り抜け参道」。試験などを無事通り抜ける縁起の良い参道として、合格祈願に訪れる参拝者も多い



箕面市桜ヶ丘1-8-1  
9時~17時(授与所) 参拝は自由  
☎072-721-2096  
http://abita.or.jp

## 三基の鳥居、三本の参道 三村の厚い信仰が今でも続く

御祭神に雨や雷をつかさどる農業神、素戔嗚尊(すさのおみこと)を祀る。春に豊かな実りを祈願する祈年祭を行い、豊穣に感謝する秋季例大祭では、地元の氏子が5カ所

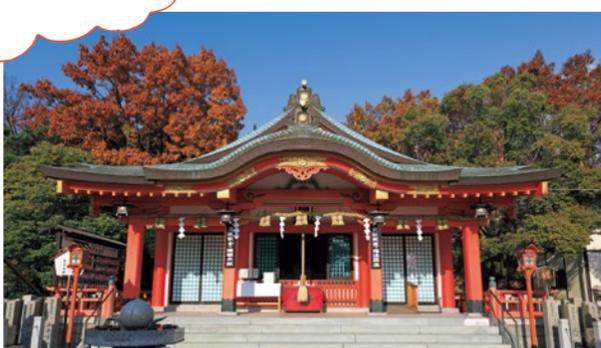
の地域から太鼓、神輿の宮入がなされ盛り上がる。御神徳は文学、武道の守護神、悪疫、早魃(かんばつ)の半町、桜、新稲の三村による、鳥居をめぐる争いの民話が残り、各村

の名前がついた参道が三方向に、鳥居も三基存在する。今でもそれぞれの地域の人たちの入り口となつている。

## 片山神社 (カタヤマジンジャ)



1. 幅5m、高さ3.6mのジャンボ絵馬。毎年12月1日から飾られ、災難除けの3つの桃も描かれている



由緒は大和時代から平安時代にかけて、吹田から千里に至る一帯で食器や屋根瓦などの窯焼が盛んだったことから、陶芸の祖神として素盞鳥尊(すさのおみこと)を祀ったことが創始と言われている。厄除けの神様として信仰を集めており、神社のシンボル「災難除けの桃」。伊邪那美命(いざなみのみこと)が



2. 社殿前にある石の「祈願桃」。自分の干支の方角から折ると願いが叶うといわれている

吹田市出口町3-3  
P有り  
☎06-6388-4070  
http://katayama-jinja.jp



## 天児屋根命神社 (アメノコヤネノミコジンジャ)



1. 境内社 八幡神社の側にある「龍ヶ井」は「龍の宮」とも呼ばれ、運氣上昇を願う参拝者が多い
2. 入り口に行む「瀬川の五本松」と呼ばれる御神木の1本。他の4本は戦時中、戦艦の材料となり今は存在しない
3. 毎年1月2日に書き初め大会が行われる(参加無料)。1月15日にどんど焼きが行われ、灰が高く上がるほど書道が上達するといわれている



箕面市瀬川1-22-20  
9時~17時(授与所) 参拝は自由  
☎072-722-1207

## 運氣上昇の神様が宿る井戸 パワースポットとして人気上昇中

大和朝廷の祭祀をつかさどった中臣氏の祖先神である、天児屋根命(あめのこやねのみこと)を祀る。元は春日神社であった社名が、社格が村社に列せられたため、明治

12年5月に今の社名に改められた。通称「瀬川神社」。龍ヶ井と呼ばれる井戸があり、今は埋没してほとんど水はないが、古くは水深くして神霊が宿っていた。あ

る夜、井戸の底より龍が水を飲んで光を放ちながら天に昇ったといわれ、運気上昇の神の井戸と崇敬を集めている。

## 災難除けの桃がシンボル

桃の実の精霊によって危難を逃れ、素盞鳥尊を生んだことから、災難を振り払い、福に転ずる果実と言われている。